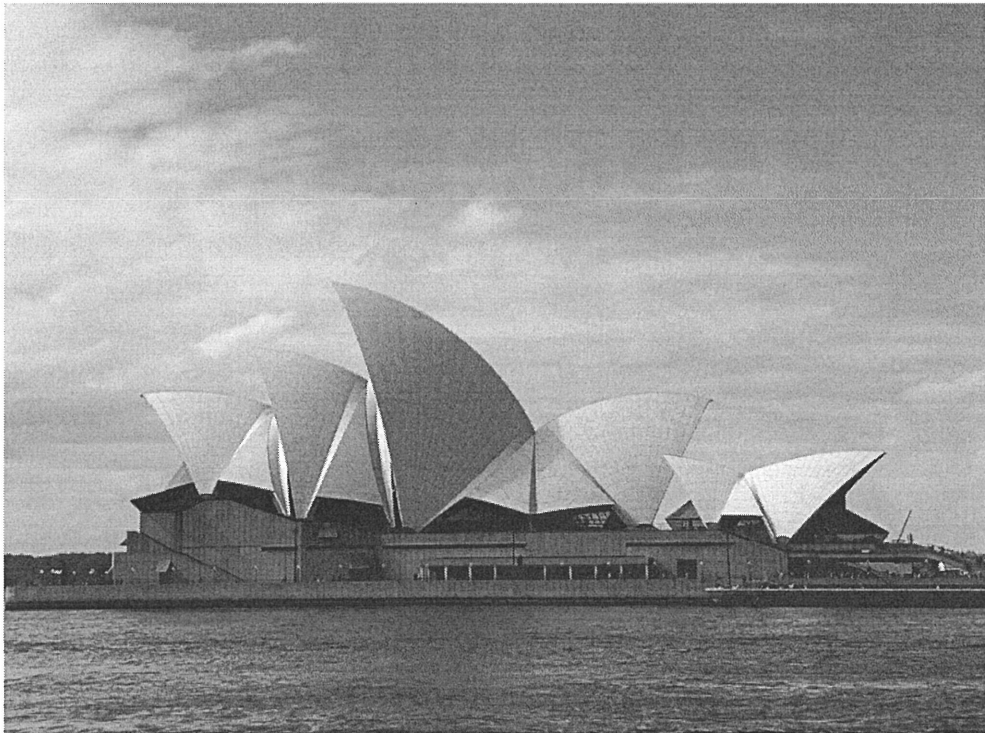


令和7年度 中学生海外派遣事業 報告書



■ 令和 7 年度中学生海外派遣事業 派遣者名簿

No.	学校・学年	氏 名
1	矢板東高校・同附属中学校 1 年	さとう まいか 佐藤 舞佳
2	矢板東高校・同附属中学校 1 年	さとう めいか 佐藤 明佳
3	烏山中学校 2 年	あらい ともはる 荒井 智晴
4	烏山中学校 2 年	しまざき さわ 島崎 咲和
5	烏山中学校 2 年	ほんだ はるき 本多 陽希
6	烏山中学校 3 年	あらい みさき 荒井 美咲
7	烏山中学校 3 年	さいとう りょうた 齋藤 亮汰
8	烏山中学校 3 年	さわむら さき 澤村 咲希
9	烏山中学校 3 年	やぐち まなと 矢口 慎斗
-	随行（学校教育課職員）	ながやま たかひろ 永山 隆博
-	随行（学校教育課職員）	いとう ふみ 伊藤 富美

矢板東高等学校附属 中学校 1 年 氏名 佐藤 舞佳

①個人課題とその成果

私が渡航前に設けた個人課題は、2 つあります。1 つめは、日本と異なる文化に触れ、国際的知識を身に付けることです。2 つめは、日本の文化とオーストラリアの文化の違いをはきりさせることです。

現地で最も日本と異なっていたと感じるのは、学校生活です。現地の学校では自然が多かったため、自然に触れて学ぶことができる時間が多くありました。よって、日本では見ることのできない植物や、先住民アボリジニの文化について学ぶことができました。そして、現地では日本より自然を大切にしようとする意識が高いのではないかということに気が付きました。

②印象に残った出来事。学び、気づき。

印象に残った出来事は、シドニー市内を観光している際に日本とは異なった標識を多く見つけたことです。例えば、「止まれ」という標識です。日本の場合、形は逆三角形で赤色です。しかし、現地の場合、色は同じですが、形は八角形でした。他にも、色に蛍光色が使われていたり、日本では見ることのできない帽子のような記号の標識だったり、様々なものを見ることができました。さらに、数も異なっていたように感じられました。従って、同じ地球上に存在している国でも、歴史や文化の違いから、このように様々な違いが生まれるということを実際に感じ、興味を持ちました。

③今後の目標や活用法(この経験をどう活かすか、次に挑戦したいこと 等)

私は、将来日本に来日された外国人の方々が日本で快適に過ごることができるような手助けをできるようになりたいと考えています。従って、現地でのスーパーマーケットの買い物や、市内観光、学校生活などの時間の中で得た経験は、このことに活かします。

さらに、将来の目標のためには、日本国内で私が未だ訪れたことのない地域や、今回訪れたオーストラリア以外の国々の文化を知ることが大切だと考えます。従って、次はさらに広い範囲で見聞を広めたいです。

①個人課題とその成果

私の今回の個人課題は、「日本とシドニーの文化の相違点を見つける。」です。私は今回、このような課題に
そして、日本とシドニーの文化の相違点を見つけ、
深く考えることができました。日本とシドニーでは、
物事の考え方、習慣など、様々な異った点か
ありました。それは、その分良いところがあるとい
えます。私は今まで日本以外の国の文化について考
えたことはありませんでした。そのため、非常に今回の事業
では充実した時間を過ごすことができました。

②印象に残った出来事。学び、気づき。

私は、公共施設での日本にはないサービスが、決ま
りが印象に残りました。その中で特に印象に残
ったことは2つあります。1つ目は、スーパーマーケッ
トで子供だけが果物を無料でもらえるコーナーが
あったことです。それは、とあるボランティア活動による
ものでした。2つ目は、図書館で、館内での飲食が
可能であったことです。このようなことから、オーストラ
リアは、お互いのことを大切にし、自由な上で責
任を重んじていると考えられました。

③今後の目標や活用法(この経験をどう活かすか、次に挑戦したいこと 等)

今回の海外派遣事業では、日本とオーストラリ
アの文化の相違点を知り、深く考えることができ
ました。日本とオーストラリアの文化には、異、て
いる点が多くありますが、その分、良いところも
あると思います。これからは、様々な国の文化に
ついて深く理解し、多くの人に伝えていきたいです。
また、将来の通訳者になるという夢に近付くため
にも、英語力やコミュニケーション力の向上に努めて
いきたいです。

鳥山

中学校 2 年

氏名 荒井 智晴

①個人課題とその成果

個人課題

- ・積極的にコミュニケーションを取り英語力を向上させる。
- ・日本文化の折り紙を紹介する。
- ・オーストラリアのアボリジニ文化を体験する。

成果

- ・ホストファミリーに積極的に話しかけ英語力が向上した。
- ・日本文化の折り紙を紹介できた。
- ・先住民アボリジニの文化を体験できた。

②印象に残った出来事。学び、気づき。

学び

印象に残った出来事

- | | |
|-------------|---------------|
| ・食文化 | ・飛行機の中 |
| ・アボリジニ文化 | ・ホストファミリーの家 |
| ・ハウスルール | ・アボリジニ文化体験 |
| ・気候 | ・ブッシュウォーク |
| ・英語 | ・大學生のケルティンという |
| (コアラ、カンガルー、 | 重カ博物館と水族館 |
| ヒビ) | |

③今後の目標や活用法(この経験をどう活かすか、次に挑戦したいこと 等)

またこういう海外派遣事業に参加し、外国に行きたいので、この経験とを活かし、さらに上達できるようにがんばりたいです。

鳥山

中学校 2年

氏名 島崎 咲和

①個人課題とその成果

私の個人課題は、たくさんの方に挑戦することでした。そのなかで、ホストファミリーと話す、文化の違いを体験したいと思いました。

個人課題の成果は、まず文化の違いをホームステイや学校で学ぶことができました。次に、ホストファミリーと話すということです。毎日、ホストマザーとあいさつして話すことができました。しかし、言葉が速くて、分からないうちにたくさんあったので、これからちゃんと英語が話せるようになりたいと思いました。

②印象に残った出来事。学び、気づき。

特に印象に残ったことは、現地で通った小学校です。現地の小学校は、日本の小学校とは違うような小学校の形で、クラスごとに建物に分かれていることに驚きました。また、モニングティータイムという時間があることです。モニングティータイムに誰んたり先生方も外に出ておかしを食ったりしていました。

オーストラリアには、外にごみ箱が多いと思いました。さらに、ごみの種類でふたの色が分かれていることを知りました。

③今後の目標や活用法(この経験をどう活かすか、次に挑戦したいこと 等)

私は、この海外派遣で、もっと英語が言えたり、もっと楽しく過ごせたりと思いました。なので次は、英語を もっと話せるようにして、もう一度海外に行きたいと思いました。

また、私は、オーストラリアに行って、思っている文化と違う生活での文化や食文化がたくさんありました。なので、そのような経験を活かして、人に優い色をかけたりし、生活に活用していこうと思いました。

鳥山

中学校 2 年

氏名 本多 陽希

①個人課題とその成果

・日本とオーストラリアの共通点や相違点を矢張り
→日本もオーストラリアも自然を大切にし、感謝する儀式がある。
しかし、日本は茶道など独自で発達したものが多く、
オーストラリアは、ブーメランやディジュリダンなど元からあるものを発達
させたものが多く

・オーストラリアの環境についての取り組み
→日本と同じようにエコバッグを利用し、ソーラーパネルが多いと聞いた。また、街
にあまり車が散乱してなく、嫌な匂いもあまりないきれいな街。

・積極的にコミュニケーション取り、英語力を高める→初めは喋れなかったが、とて
②印象に残った出来事。学び、気づき。フレンドリーに話しかけてくれたおかげで徐々に話せるよう
になった。

アボリジニの文化は約300種類あり、自然
に感謝する文化が多い。現在も後世に受け継いでいっ
ている。(自然の石や木を使った文化が多い)
1898年に造られた「クイーンヴィクトリア・ビルディング」は主に鉄骨や砂岩が使わ
れているがその上、日本の建造物は木材や一部に岩などを使っている。
環境の取り組みは、エコバッグや一部の人には電気自動車
を使っている。(電気自動車の割合はオーストラリアの方が高い)
また、ソーラーパネルも使っているところが多い。

③今後の目標や活用法(この経験をどう活かすか、次に挑戦したいこと 等)

日本とは全く違う環境にいたことで植物や学校、文化について矢張りだが
大人の英語を聞き取ることが難しかったので、これからもっと勉強
して大人とも積極的にコミュニケーションがとれるよう努力したい。
もっと色々な国に行き、環境への取り組みを学んできたい。
また、良い所、悪い所を共有し、よりよい地球を守る
活動力をしていきたい。

島山

中学校 3年

氏名 荒井美咲

①個人課題とその成果

個人課題：オーストラリアの文化を感じ、英語でのコミュニケーションを頑張ること。

その成果1：ホームステイ先の食事や生活がオーストラリアの習慣や、学校体験から海外の教育、子供達の環境について知れた。

異文化を感じた事… ホームステイ先：肉やパン、サツマ芋の「間食」が多く、量も多い。

学校：生徒は積極的で、自然と仲良くなり事を大事にしていた。

その成果2：お友の人数、ホストマザー、学校の友達などと最初は全然話せず、コミュニケーションが苦でも難しかった。けれど、あまり難しく考えずに簡単な英語やジェスチャーでスポーツを楽しんだら、日本の文化について紹介して、現地の人口と

楽しくコミュニケーションをとれた。

②印象に残った出来事。学び、気づき。

印象に残った事1：オーストラリアの授業について、先生は生徒から自ら行動するのを当たり前としていて、不慣れながらも発表やグループを頑張ってみて、積極的にになると自分が学べる機会が増えると感じた。

印象に残った事2：ホームステイ先での生活や人柄について。ホストマザーはたくさん日本についての質問やお寿司のカードゲームを使うなどして、とにかく交流を大事にしてくれていた。リアクションだけでなく精一杯やっていたら、最初の時よりずっと打ち明けてくれて派遣前に言われた「何れ勇氣を出して話すこと」の大切さを学ぶことができた。学校で仲良くなれた子もいて、積極的なコミュニケーションの大切さに気づくことができた。

③今後の目標や活用法(この経験をどう活かすか、次に挑戦したいこと 等)

今後の目標：この体験を中学校、高校生活に活かすこと。

どう活かすか… オーストラリアや海外の文化を周りに広め、少しでもみんなに異文化を知ることについて楽しめるようにする。もっと積極的にコミュニケーションをし、グループ活動の時にオーストラリアの授業の様な態度で取り組む。受験の際やその後の高校生活などの慣れない場でもオーストラリアで勇氣を出して話しかけた時のように自分に出来る事を頑張れるように努力したい。

次に挑戦したい事：他の国や高校でもっと色々な人と英語で話したり、オーストラリアの異文化体験会、日本文化紹介を繰り返していき、外国人の友達を作ってみたりしたいと思った。

烏山

中学校 3年 / 氏名

齋藤 亮汰

①個人課題とその成果

僕は、個人課題にいつもよりも積極的に話しかけ、コミュニケーションを多くとり英語を前よりも話したり、聞きとったりできるようにすることと、オーストラリアと日本の違いを感じ、それを理解して、これから考えていく物事だ、たりをいつもと違う視点から見て考えられるようにすることを主に掲げました。語学力に関してはすぐには上がりませんでした。得た経験と後悔を胸に今まで以上に努力したいです。また、異文化についてよく知れました。これを忘れず、これからよりポジティブに物事を考えていきたいです。

②印象に残った出来事。学び、気づき。

ハンドドライヤー付きの今までに見たことのない水道があり水を出せずに困っていると隣の人が、親切に教えてくれました。日本ではあまりないことなので、驚きましたが、とても嬉しく見習いたいなと思ったので、近くにいた人にも勇気を出して英語で伝えると笑顔で「thank you」と言ってくれました。なので今までは思っていたよりも大丈夫かなと思いやらなかったことも喜んでもらえるのでオーストラリア人を見習いポジティブでフランクに考えます。

③今後の目標や活用法(この経験をどう活かすか、次に挑戦したいこと 等)

この経験から、思ったことは、相手が喜んでくれることならすぐに実行するということなど。の考え方や、異文化の知識などたくさんのことを得られました。まずこれを自分の周りから伝えてい、たり、生活に考え方を活かします。次に、僕は印象に残った出来事からもボランティア活動をしてみたいと思います。少しずつでもまた挑戦することで、自分を成長させてくれると思うので周りに感謝を忘れず、一歩踏み出していきたいです。

鳥山

中学校 3 年

氏名

澤村 咲希

①個人課題とその成果

個人課題①積極的にコミュニケーションを取ること。

その成果… 自分から色々な質問をすることができた。分からないことも、ちゃんと英語で伝えられた。話す時に笑顔で話した。分からない時は、ジェスチャーを使って表現した。

個人課題②生活の違いについて知る。

その成果… 食生活が日本とは全く違った。授業では、1アワー17分、グループ活動などが多かった。英語だけでなく、協力することの大切さも学ぶことができた。6回食事をするところがある。めずらしい食べ物が多く、くわしく知ることができた。

②印象に残った出来事。学び、気づき。

印象に残った出来事… アボリジニー体験をしたこと。オーストラリアの先住民族で木に手形などを付けたり、火をつかったりした。

学び、気づき①挑戦することが大切。自分から色々なことに挑戦をしていくと思った。失敗してもいいからやってみることが大切だった。

②多様性を尊重する。人と違った所があってもお互いを認め合い、理解することが大切。また協力し合う。相手の文化や考え方を知らうとすることで、新しい何かが出来たり、より良い社会になっていくと思う。

③人からフレンドリーだった。みんな優しく笑顔で話しかけてくれた。すぐ仲良くなることができた。みんな積極的に話しかけてくれた。

③今後の目標や活用法(この経験をどう活かすか、次に挑戦したいこと 等)

今後の目標①ここからの学校生活1年をいかにしたい。②文化の違いを周りの人に伝えてもらう。だから、家族や友達、先生に出来事を話す。③積極的に話しかけていきたい。これから出会う人に今回勇気をだした時のように話しかけていきたい。④どんどん英語を使っていきたい。簡単な英語からでもいいから言葉を発していきたい。

次に挑戦したいこと… もう一度外国1行きたい。その時にはもっと本格的に話せるようにしたい。そのためにここからの学校生活に力を入れていきたい。この経験を生活に活かしたい。

島山

中学校3年

氏名 矢口 慎斗

①個人課題とその成果

〈個人課題〉

- ・外国人と話すとき躊躇しないです。
- ・英語で話すことに慣れ日本でも英語を使う機会を増やす

〈成果〉

オーストラリアで過ごすといくつ年々に英語で話すことが楽しく思えてきた。
最終的にもっと英語で話したくなってきた。

②印象に残った出来事。学び、気づき。

思ったより会話ができてうれしかった。だけど自分から話しかけることはあまりできなかったのが改善点だと感じた。

オーストラリアの文化は日本と違うところがたくさんあった。食文化や日常生活面でも良い意味でのカルチャーショックを受けた。

オーストラリアの学校では生徒一人一人の意見を尊重している学校だった。
そこで現地の学校と友達になれたことが一番うれしかった。

自然では three sisters という見下ろせる観光地が3つありオーストラリアの自然の豊かさを感じることができた。

③今後の目標や活用法(この経験をどう活かすか、次に挑戦したいこと 等)

全体を通してとてもいい経験になったと思う。この約1週間の留学を通して英語力は上がっていないかもしれないが英語学習に対するマインドが変わった気がした。今までは入試のために英語を学習してきたが、留学を終えて様々な人と交流を深めるため、自分の可能性を広げるために英語を学習したくなった。

またこの経験を忘れずあと1,2回くらい自分の力で留学したいと考えている。今度はアメリカやイギリス、カナダなど行ってオーストラリアとの文化を少しあわせて留学してみたい。次の挑戦は英語圏の国に行って、できれば1年間滞在し語学学校などで自分の英語力を伸ばしたい。